

ご挨拶

本日は、「第30回職業リハビリテーション研究・実践発表会」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

開会にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

当発表会は、職業リハビリテーションに関する調査研究や実践活動から得られた多くの成果を発表いただく機会を設けるとともに、ご参加いただいた方々の間の交流を通じて、研究、実践の成果の普及を図るために、平成5年から毎年開催し、この度、おかげさまで節目の30回を迎えることができました。

これまで多くの方々に発表いただくとともに、様々な方々にご参加いただきましたことに対しまして、心より感謝いたします。

さて、本日から二日間にわたり、職業リハビリテーションを巡る様々なテーマからの熱のこもった発表がなされると思いますので、皆様方も是非お時間が許す限りご覧になっていただきたいと存じます。

中でも、本日の特別公演や、両日のパネルディスカッションにつきましては、コロナ禍で顕在化した働き方改革やWeb技術の進展等で、障害者就労を取り巻く環境も変化し、新たな雇用支援が求められておりますが、その中で、最新の状況をご紹介いただくこととしております。

具体的には、本日の特別講演では、人口減少を背景とした多様な人材の活用が求められる中、障害や難病等のある方の働き方も、テレワークや在宅勤務などで急速に変わりつつあります。このため、障害者の雇用の現場でのテクノロジーの上手な活用方法・事例など、多様な働き方や産業・大学等・行政の地域連携についても触れながら、現在のトピックを概観していただきたいと思います。

また、本日のパネルディスカッションでは、企業内での障害者雇用が進められている中で、障害者を受け入れる職場づくりの重要性、これが認識されるようになっていきます。こうしたことから、共に働く同僚のちょっとした理解やサポート、これにより、障害のある方が力を発揮しやすく、より働きやすい職場環境となる事例などをもとに、企業や研究者の立場から具体的な取組みのご紹介や意見交換を行います。

明日のパネルディスカッションでは、企業の採用活動や学生の求職活動が広く行われている中で、大学等で学ぶ発達障害のある学生は年々増加し、大学等の中には課題を抱えているところも見受けられます。これを踏まえ、発達障害のある学生に対する就職に向けた大学等と就労支援機関との就職活動の連携支援について、各立場でのお取組みをご紹介いただき、検討を深める機会といたします。

本日の発表会における研究成果や取組みの内容が、新たな取組みのヒントとなり、会場にご参加いただいている皆様をはじめ多くの方々により、地域の様々な場で活用され、障害者雇用の促進と職業リハビリテーションサービスの推進につながっていく機会となることを期待しています。

さて、近年、障害者雇用の取組みは総体では着実に進展しつつあるものの、一方では依然として中小企業では雇用ゼロの企業も多くその実雇用率は低い状況のままであることから、行政、関係機関や企業の更なる努力が期待されているところですが、これに当たりこうした動向や事例を発信し、今後の取組みのベクトルを多くの方々と共有していくことも有意義なことと考えております。

かかることもあり、今回、特別公演、パネルディスカッションについては、より多くの方々に内容をリアルに共有するため、初めてライブ配信を行うことといたしました。

このライブ配信の動画は、後日、障害者職業総合センターホームページに、今回の発表会の概要とともに掲載する予定にしております。皆様の周りの方々にも広くご紹介いただけると幸いです。

最後に、当機構として、今後とも皆様の期待に応えるべく、自らのミッションに真摯に取り組んでまいります。また、今回の発表会の開催にご協力賜りました特別講演の講師、パネリストの皆様、分科会発表の皆様にご心より感謝を申し上げますとともに、本発表会が皆様にとり実り多いものとなりますよう祈念いたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。

令和4年11月15日

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
理事長 湯浅 善樹